

## 第1回「やまだ塾」開催

昨日 12 日 14 時から、近鉄八尾駅近くの「メゾンアッシュドゥ」で、「やまだ塾」を開催した。八尾は近鉄で名古屋に行くとき通過することはあるが、降り立つのは初めてだ。鶴橋から準急に乗ると、すぐ八尾に着いた。こんなに近いとは意外だった。駅前の巨大ショッピングセンター「アリオ」で食事をして会場に向かった。会場はきれいな庭が見える会議室であり、冬景色の庭をじっと眺めていると、なんだか心もなごむ。



まず、私から下記のようなメモにより話題を提供した。

◇なぜ「塾」なのか

- ・住民投票、とりわけ「語ろうかい」を通じた「つながり」を継承
- ・学び語り合うことの大切さ、情報と問題意識の共有、交流の「場」
- ・信州佐久／望月の「宮本塾」に学ぶ、村づくりへの力
- ・大阪のまちづくりへの力、八尾にアメニティある「場」を発見

◇足もと、グローバルから考える

- ・2つの「軸」— 時間軸と空間（地域）軸、短期（当面）と中長期
- ・2つの軸からみた新型コロナ、経済社会構造へのインパクトと当面の対策
- ・コロナ禍の世界経済と社会、ポストトランプ、アベからスガ政権へ
- ・とりわけ気になる日本学術会議問題と新型コロナ対策、「Go To」
- ・大阪の構造変化と維新政治、住民投票とコロナから見えてくるもの

◇本日、そして今後どのように進めていくか

- ・とりあえず2つの本を紹介  
齋藤幸平『人新世の「資本論」』  
佐々木実『竹中平蔵 市場と権力』
- ・参加された皆さんから

コロナ禍ということもあり、参加者は少なかったが、2時間近くにわたり議論した。参加者は先の住民投票で「大阪市存続」を訴えた人が多く、市立高校の府立への移管、大阪の教育や福祉、大阪の風土と政治意識に話題が集中した。「生活者」としての意識、「顔の見える社会主義」など、齋藤幸平さんの主張にもつながる指摘もあった。

次回は1月23日に開催することにして、住民投票であらわれた大阪のエネルギー、まちづくりの課題など、今回に続いて「大阪論」をテーマとすることにした。美しい庭の見えるアメニティある会議室で、「やまだ塾」を継続させていきたい。

(2020年12月13日)